

令和元年度 地域貢献活動支援報告書（中間報告）

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 教養教育院
氏 名 瀬戸美奈子

活動テーマ	桑名市適応指導教室における不登校の子どものキャリア教育
実施期間	令和元年5月 ～ 令和2年3月
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>①キャリアに関する個別の指導計画作成（5月～9月、2月～3月） まず大学教員および適応指導教室指導員と協議しながら、個別の指導計画作成のためのワークシートを作成した。ワークシート作成や活用については既に取り組んでいる他の地域の適応指導教室の取り組みを参考にし、実際に他の適応指導教室の見学、指導員同士の交流を行いながら、桑名市の通級生の現状に適した形に改良を行い完成した。さらに大学教員および学生が適応指導教室を訪問し、通級する児童生徒の参与観察を行い収集した情報をもとに、指導員と事例検討を行い、通級生のキャリア支援のための個別の指導計画を作成した。②の授業実施の際に収集した児童生徒に関する情報を適応指導教室指導員と共有し、3月に指導員、学生、大学教員による振り返りの会を開催し、次年度以降のキャリアに関する個別の指導計画作成を行った。</p> <p>②キャリアに関する授業実践と指導計画作成（10月～2月） 1月にキャリアに関する授業「未来マップを作ろう」をテーマに学生6人が授業者となって通級生9名を対象に授業を展開した。授業にむけて、10月から学生たちが研究論文を読みながら協議を重ね授業をデザインし、自己理解のためのワークシート作成、未来マップを作成するための教材の準備、授業の指導案作成をすべて学生主体で行った。授業のデザインや指導案については適応指導教室指導員にも検討してもらい、助言をもらいながら、授業実施となった。また授業にあたっては、①で作成した個別の指導計画を踏まえて、子どもの状況や目標に応じた個別の関わりや声掛けを、個々の子どもたちに対して学生が行った。</p> 

③不登校児童生徒のキャリア教育についての講演会実施および②の実践報告

県内の各市町適応指導教室指導員 60 名程度が集まる「三重県教育支援センター指導員実践交流会」（2月21日実施）において、学生3名が②の授業実践の果を報告し、大学教員が「不登校児童生徒のキャリア教育」をテーマに講演を行った。



(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与，広がり）

アセスメントをもとに個別の指導計画を作成したことによって、より適切な支援を行うことができた。また実施されてこなかった桑名市の不登校児童生徒へのキャリア教育に着手し好評を得たことによって、今後継続的に不登校児童生徒への進路指導につなげていくことが可能となった。また桑名市での成果を教育センター指導員交流会で県下全域に伝え、広くその成果を還元できた。

(3) 共同実施者との連携状況

個別の指導計画作成のためのワークシート原案作成や他の適応指導教室との交流、キャリアに関する授業への助言は共同実施者である桑名市適応指導教室指導員が担当した。通級生に関する情報収集補助およびキャリアに関する授業デザイン、教材等の準備、指導案作成、授業実施は学生が行った。報告者は活動全体の方向性について、共同研究者と協議しながら、個別の指導計画についての指導助言、事例検討の際の助言、学生の授業デザインに対する助言、および研修会における講演を行った。定期的に共同研究者と報告者はミーティングを行い、密に成果を共有し、今後さらに連携しながら不登校対策を推進していくことを確認した。また学生も適応指導教室を訪問し通級生と関わる機会を持ち、共同実施者である適応指導教室指導員は大学を訪問しゼミに参加するなど、研究と実践の両方の観点から活動について検討を行った。

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

今回キャリアに関する授業実践の主体となった学生6名はいずれも報告者のゼミに所属しており、将来教員または心理職として子どもの心理的支援に関わる職業に就く予定である。また学校臨床心理学を専門に日々研究に取り組んでいる。今回、適応指導教室に通級する児童生徒および指導員の方々と交流し、共同で実践を行うことによって、研究と実践の両面から学びを深めることができた。さらに実践に関わることによって、今後学生たちが取り組むべき課題が見え、教員および心理職となるための資質向上の意識を高めることができた。また、今回の成果は報告者が担当する教職科目で受講生に広く還元していきたい。

(5) イベント等開催実績（名称，実施場所，参加人数等）

- ・「未来マップを作ろう」（桑名市適応指導教室 児童生徒9名、指導員5名、学生6名（授業者）、大学教員1名）
- ・三重県教育支援センター指導員実践交流会における授業実践報告、および講演会予定（桑名市 県内適応指導教室指導員 60名程度）

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

これまで取り組まれてこなかった、不登校児童生徒へのキャリア支援について専門的な知見を踏まえたうえで実践を行うことができた。また個別の指導計画を作成することで、適切な支援の方向性を示すことができた。今後はキャリアに関する授業実践の回数を学期に1回程度行い、回数を増やしていくこと、在籍学校と適応指導教室で連携しながらキャリア支援を行っていくためのリーフレットやワークシートの作成が課題である。